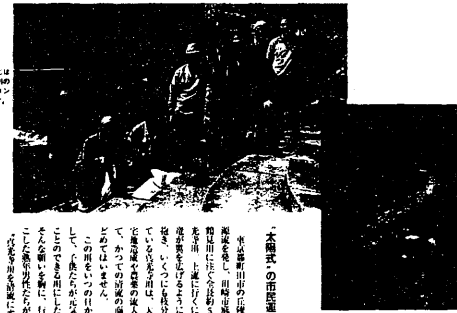


真光寺川を清流にする会

子供たちが元気に遊ぶ姿を夢見て 熟年世代のグループが奮闘



真光寺川には、川の中や川岸にゴミが散らばり、子供たちが遊ぶ姿を夢見て、熟年世代のグループが奮闘して清流にする会が活動している。

この写真は、真光寺川を清流にする会の活動の様子を捉えたものである。

あなたが”里親第1号”です

「真光寺川を清流にする会」世話人 山口 拓郎

桜の花がアッと云う間に散り滴るような新緑の季節がやって来た。清掃の季節到来だ！「緑の日」に5ヶ所に「メダカ基金」ポストを取り付けた。調整池の上で取り付け作業をしていると近所にお住まいの「記念植樹実現の会」の西川さんが気さくに声をかけてくれた。「それは素晴らしい！一語に手を組んでやりましょうや。」早速100円玉を入れて下さった。西川さん、あなたが”里親第1号”です。

3月一では、お読みです!

3月10日(土)「3月度作戦」

春は名のみでまだ浅い。柔らかい日射しがありがたい。いつものように9時半に開戸親水こ集合、定点観測から始める。当日は下堰橋親水で魚を放流することになっていた。実はこんないきさつがあった。2月中旬神蔵さんから電話があった。「真光寺川で釣った魚を池で飼っている。今度の例の際に釣上げ川へ返してやりたい」3月例会の案内にその旨を記して出した。そして「釣り竿をお持ちの方はご用意下さい」と書き添えた。このことはどうやら「他人の心ない仕打ち」だったらしい。神蔵さんからまた電話があった。「飼っているうちに情が移り我が子の様な気持ちになってきた。魚の方もなついている。自分一人で釣りたい」と云う主旨だった。「では達者でナ！蟹には気をつけな。鯉や鯰も用心しろよ」そんなことを呟きながら名刺を惜しんだのであろうか。10時半、神蔵さんがバケツに20匹ばかり魚を入れて下堰橋親水へ来られる。1光鶴川小学校の大川先生、父兄の方、児童1名。それに鶴川三小の駿・けい太・健の3人も立ち会ってくれた。一匹・一匹水に放してやる。暫く泳ぎ廻っていたがやがて水草の陰に姿を消した。



「それでは、話を聞いてみようネ」と約束されたのがお電話のあった背景だった。多少の資料を用意してお伺いする。「よく判りました。朝礼で皆にも話をしましょう」と云って下さった。校長先生は近々に定年退職されるのだそうだ。別れ際に「後任の校長にもよく引き継いでおきますよ」とおっしゃって下さった。

4月一では、お読みです!

4月4日(水)下水処理場見学

会員の希望もあり、下水道局の守田主任に「鶴見川クリーンセンター」の見学をお願いした。当日は成瀬から森川係長が駆けつけて下さり恐縮した。「緑山住宅」の一隅を占める210,000m²平方の広大な設備だ。折から桜が満開だった。

3月29日(木)校長先生に面談

鶴川三小の安藤校長先生から電話があった。君達が校長先生の所へ「里親の会へ入っていいですか?」と聞いてきたのだそうだ。

スライドを見た後、担当の家城さんが案内して下さいさる。

処理棟の中は広々としたコンクリートの原っぱだ。足の下をゴウゴウと水が流れている。辺りにムットとした匂いがこもっている。町田の約三分の一の地域の下水が暗渠の中を川となって此処へ流れ込む。「一次処理」汚水をスクリーンを通して粗く分別する。「二次処理」幾つものタンクの中を11時間半かけて通過する。その間、微生物が汚水をせっせと浄化する。出てきた時は澄み切った清流だ。鶴見川へ放流される。微生物よ、ご苦労さん! 文化的生活とは何と手間がかかるものであることか。そんな感慨を抱いて辞去した。

4月6日(金)細菌調査のサンプル採集

エコネットの例会で松前さんから「真光寺川の細菌調査をしましょうか」と云うありがたいお話があった。北里大学の名誉教授をされている。

10時に家を出る。開戸親水を起点に真光寺駐在所裏まで4ヶ所でサンプルを採取する。調整池では足場が悪くアクロバットもどきの格好で辛うじて水を掬う。

思いがけず時間が掛かり終いには駆ける様に約束の場所へ急ぐ。案内の定、既に見えられていた。恐縮して汗を拭きふきお渡しする。

4月7日(土)4月度作戦

お待たせしました! いよいよクリーン作戦の季節到来だ。だがまだ水は冷たそう。天気予報は曇り時々雨だった。ひたすら天候回復を祈った。願いが天に届いたのだろうか、当日は朝から快い青空が広がっていた。

9時半、開戸親水へ。あたるのゴミ拾い。そして定点観測。シニア向け隔月刊誌「おたっしや倶楽部」の記者とカメラマンが見える。先日、取材の要請があった。若い女性記者の質問に答える。作戦目標は開戸親水から下堰橋親水まで約1000mだ。それぞれ袋を手に川を遡って行く。和光鶴川小学校の大川先生と和田先生も参加して下さいさる。

アッと云う間に用意した20袋が無くなる。予想外のゴミの量だ。宮川さんが急遽、お宅から袋を補給して下さいさる。矢崎橋の辺りでスラリとした女性が作業に加

っているのに気がつく。「ご近所の方ですか?」と声をかける。「いいえ、大川先生の後を受け4年生を受持つことになりました」とのお答。岡本先生だつた。失礼しました。感謝!

12時過ぎ、作戦終了。「戦利品」自転車4台・鉄材・家電製品・ゴミ袋30。晴々とした気分で証拠写真を撮る。「いいい会館」で例によってニギヤカな反省会となる。ビールがうまかった。

5月になって「おたっしや倶楽部9号」が届けられてきた。見出しは「元気に乾杯!」とあった。

一枚の紙が挟まれていた。「当誌は9号をもって休刊となります」コミック誌が何百万冊の部数を誇っているご時勢だ。良心的な出版物は最早淘汰されて行く運命にあるのだろうか。キビキビした若い記者の表情を思い浮かべ何か割り切れない気分が陥った。

4月9日(月)「大腸菌が・・・」

榎本さんのアレンジで都市基盤整備公園と打合せが実現した。当日はエコネット会員の中山市議員、市役所の青木緑政部長も立ち会って下さる。公園からは早田所長、河内課長、水口担当が出席された。

暗渠に没した真光寺川は開発地の中央部分から「せせらぎの小径」に沿って地上に姿を現し水辺公園に模様替えされる調整池に注ぐと聞いていた。できたら水量の豊かな子供達の遊べる場所にしてほしい。そんな願いから公団との打合せを希望してきた。

課長が図面を指しながら説明される。「開発地の中央箇所を起点に450m・河川敷きの幅10m・遊歩道幅2m・流水域幅30-50cm・水深5cm・水量50-60リットル/分・水は500m離れた真光寺公園の池から引いて来る予定」とのこと。

想像との格差が大きすぎた。何故真光寺川の水を使わないのか？暗渠に没した川を地上に復活する約束ではなかったのか？思わず声が上ずってくる。「実は昨年8月、水質検査をしたところ大腸菌が発見されたのです。行政の許可がおりないのです。それにバブルがはじけ計画が大幅に狂ってしまい・・・」課長の声がちいさくなってくる。

青木部長は少しでも水量を増やすように取りなして下さった。せめて河川敷は極力自然を生かした設計にし、流れに淵や瀬を設けてほしいとお願いするのが精一杯だった。

4月29日(緑の日)メダカ基金ポストの設置

9時、神蔵さん宅に集合、「ポスト」を設置して廻る。5ヶ所。宮川さんのベンチ裁きはプロはだした。

散歩途中の方々方が寄って来られる。早速主旨をお話してチラシを配る。

調整池で「記念植樹実現の会」の西川さんに会う。「どうせ公園を作るならば桜がばつと咲き住民が交流できる場所にしたい。そう考えているんですよ。ひとつ手を取り合って行きましょうや」100名近いメンバーが参加しているそうだ。「会」の山本さんも発起人の一人だ。

真光寺川を媒介に地域の交流の輪がどんどん広がっていく予感がしてきた。

5月1日(水)学校行ってたもんじゃない

5月9日(水)細菌調査サンプル採集
松前さんのご好意で継続的にお願いできることになった。「せせらぎの小径」の打合せで大腸菌がいるため真光寺の水が使えないと聞き一層切実に感ずるようになってきた。



4月20日「北里環境科学センター」から先月のデータが送られて来た。

CFU/mL	細菌数	大腸菌群類
開戸親水	25000	160
下堰橋	3000	29
調整池	4000	37
真光寺駐在所裏	19000	14

特に劣悪な状況では無さそうに思えるのがどうだろうか？

ついでに「メダカ基金」ポストの状況をチェックしチラシを補給しながら歩く。チラシの減り具合が場所によつて違うようだ。

5月12日(土)5月度作戦

前月に引き続きクリーン作戦：今回の目標は「下堰橋親水」から「神明の調整池下」までの約1000mである。

先月足りなくなつたのに懲りて袋40枚を準備して家を出る。

9時20分開戸親水へ。思いがけずエコネットの犬塚さんが見えていた。境川で活躍されている。「そのうちJR町田駅のヨドバシ・カメラ裏でクリーン作戦をやりましょうや」と話し合っている。

駿・圭太少年も来る。健君はサッカーの試合だそうだ。

周辺のゴミ拾い。そして定点観測。

クリーン作戦は下堰橋親水から遡行する組と神明から下降する組と二手に分かれる。

少年達は五條さんをお願いして「五條池」の清掃と魚の観察をして貰うことにする。

前日の雨のせいか水嵩が多い。ゴミが水面から没して拾い難い。段落になっている箇所が多くある。ところによつては段差が2m近くもあり、その下は深い淵になっている。転げるように滑り落ち胸元まで水につかり思わず悲鳴をあげる。しかし作業は楽しい。

「かるがも」の親子が一列になつて泳いで行く。雛は9羽、まだ孵ったばかりで拳ほどの大きさである。この内何羽が無事成長を遂げるのであろうか。「頑張れよ！」思わず声をかけたくなる。

1時に終了、「いこい会館」へ。齋さんから「メダカ基金」ポストの報告があつた。

会員登録6名。募金額：6341円
十日余りの短日時には凄いい手応えだ。なかでも鈴木今朝夫さんからは素晴らしい手紙が寄せられた。「里親の会」ではなく「清流の会」に参加したいとあつた。期せずして拍手が湧き上がった。

5月14日(月)「里親会通信」の発行

高橋さんが「メダカ基金」ポストの成果を早速「里親通信」として纏めて下さる。

バイクで5ヶ所のポストに配って下さる。よせられた折角の好意を無にしないよう、極力フィードバックと透明性を心がけていきたい。即刻、郵便局に預金口座を設けた。

一方、楽観ばかりはしておれない。いたずらだろうか、開戸親水のチラシ入れはちぎりが捨てられていたと云う。

5月15日(火)地域公開教育講座

和光鶴川小学校の大川先生からご案内を頂いた。テーマは「私たちの真光寺川」川を通して考え学ぶ子供達の総合学習成果の報告である。

是非お聞きしたいと思った。10時から駅前のホテルダイヤモンドで開催された。高橋さんも見えていた。60余りの席が満員の盛況だった。

スライドを使い判りやすいお話だった。

・初めは川は汚いと子供達がいやがる。
・川に実際に触れ喜びやがて夢中に。

- ・ナマズとの出会い
- ・カワセミの巣の追跡
- ・生物から環境への関心の広がり
- ・周辺の人々との出会い等々

子供達が真光寺川に親しみながら学習し視野を広げて行く過程が生き生きと述べられ聴衆に深い感動と共感を呼んだ。特に「学校行ってたもんじゃない」

最近、子供の教育問題について日本の将来が危ういと喧伝されている向きがある。しかし、いい教師、いい教育環境に恵まれたならば子供達はすすくと才能を伸ばしていくに違いないと云う思いを強くした。

指名して頂いたので「清流の会」の設立の経緯と活動につきかいつまんで話をさせてもらった。「里親制度」をご存じの方もいたようだ。

終わって聴衆の中から「清流の会」に加入の申し出あつたのは嬉しかった。



和光鶴川小学校
「子供の生きる学校」より